

## 入試における災害（地震）発生時の初期対応マニュアル

災害対策本部の設置（第1職員室：校長・教頭・事務長・藤沢・長岡）

入試の受付前、当日朝早くの災害の場合は災害対策本部が詳細以後の1～3を決定し、放送などで徹底

する。各中学などへ連絡する。

入試本部（筆記試験中→第1職員室、面接試験中→第1職員室・教頭ほか）

指示の放送は教頭

各検査室・係は災害担当のリーダーを決めてください。

全体の心構え 具体的には以下を見る

入試日の朝の連絡事項の際に \*各検査室では、図を示し、避難経路を受験生に周知すること。

地震の強さに応じて下記の対応をとり、受験者及び自分の安全を確保すること。

\*中断時の受験者への対応は、冷静に（冷静を装って）行うこと。

\*再開時には受験者に不利のないよう、必ずやり直し等の配慮を忘れないこと。

\*判定結果に地震の影響を加味しないこと。

\*報告を忘れないこと。

### ①受付中の災害の場合

\*案内係は分担の教室へ移動、

\*受付係は近くにいる受験生を誘導、

\*駐車場係は正面入り口下へ誘導

窓のない壁のところで、身を守る姿勢に、上記各リーダーは状況を確認して本部へ

教室の中では机の下へ身を隠す、廊下にいる受験生は窓のない方の壁際に

\*本部では状況を判断して、放送あるいは拡声器でアナウンスする。

### ②休み時間・昼休み中の災害の場合

\*検査室係はすぐに検査室へ、各担当者は全員各教室へ、

受験生を誘導、避難、もしくは待機

リーダーは状況を確認して本部へ

廊下にいる受験生を壁際へ誘導・トイレの確認

\*本部では状況を判断して、放送あるいは拡声器でアナウンスする。

### ③面接中の災害の場合

\*一人は面接室で受験生の誘導、一人はすぐに検査室（控室）へ移動

\*検査室（控室）では状況を確認して二人を残して、一人は本部へ連絡

\*以下の1～3のマニュアルで対処、軽微な場合はすぐに面接室へ戻る

\*受験生だけで不安な場合は面接を一人にして、検査室（控室）で待機

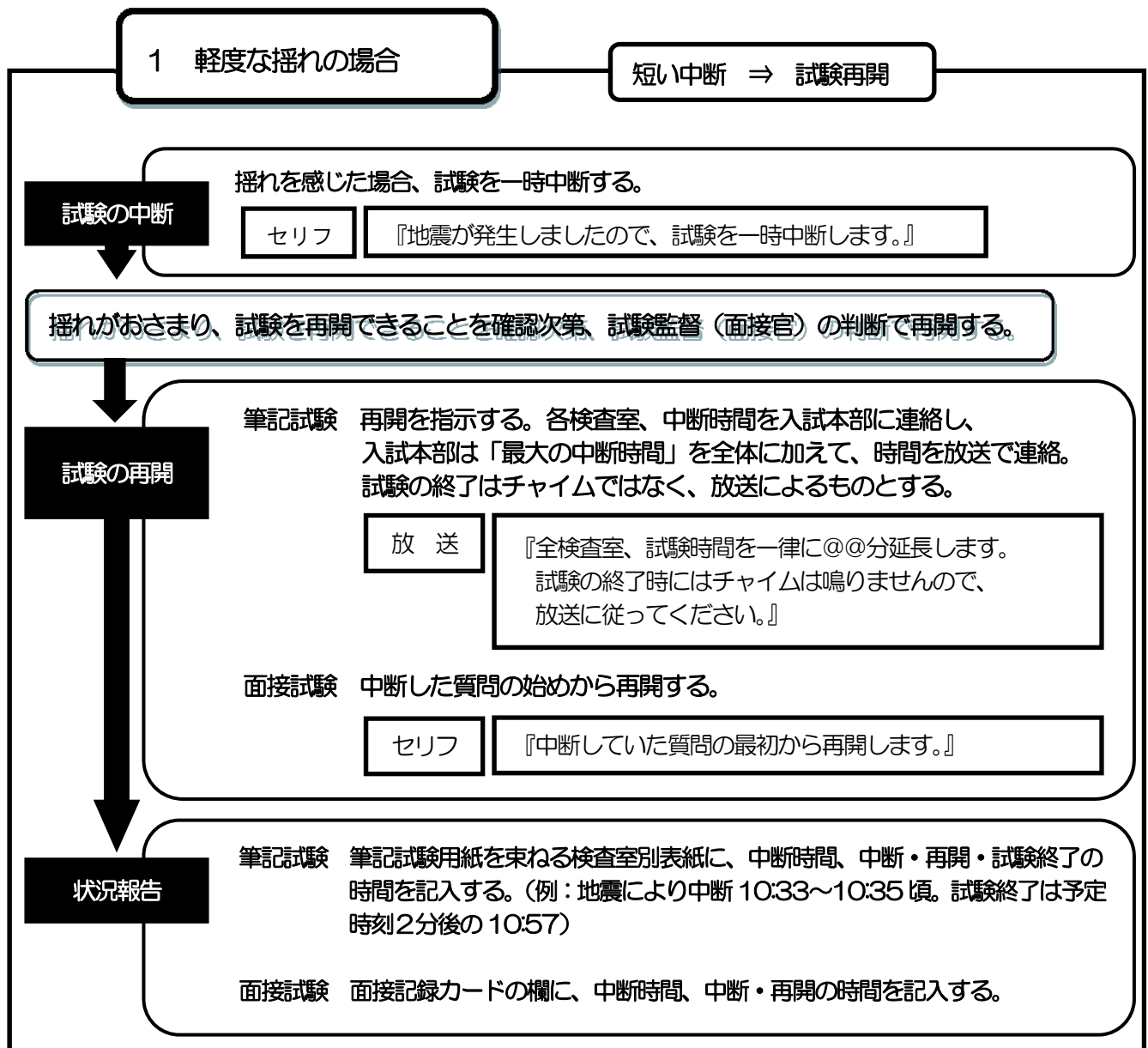
#### ④試験終了直後

\*担当場所を中心に2人以上で見回る、トイレ・保護者控室、状況を確認して本部へ

各分担係で必ず災害担当のリーダーを決めておいてください。

マニュアルを必ず読むこと

以下試験官が3人もしくは4人で行うことを想定、2人の場合は一人がAB、一人がCDとなる。



## 2 やや大きな揺れの場合（または緊急地震速報が鳴った場合）

試験の中断・放送でも指示

### 試験の中断

- ① 揺れを感じた場合、受験者に机の下に身を隠し、頭を保護するよう指示する。

セリフ

『机の下に身を隠し、頭を保護して下さい。』

試験官AB（面接官）も机の下に身を隠す。

- ② 揺れがおさまったら、検査室のドアを開け、出口を確保する。

セリフ

『ただ今、地震の状況を確認中です。試験は一時中断とします。机の下に身を隠したまま、指示があるまで、余震に備えその場でお待ちください。ケガをした受験生は本校保健室にて手当・治療を行う準備ができていますので、今、声を出して申し出てください。』

- ③ その時間の監督業務を外れている試験官C（D）は担当の検査室に急行する。  
④ 試験官Cは、試験官ABと「検査室内の様子」・「ケガをした受験生の状況」を確認し、試験官Cがそれらの状況を本部に報告し、本部に待機する（⑥⑦に備え）。ケガ人がいた場合には試験官Aが、保健室に連れていく。  
この時、各検査室内の受験生は机の下のまま。各検査室内には最低試験官B  
⑤ 本部は全試験官Cとともに対応を協議。  
具体的には  
試験再開時間・終了時間・放送での指示内容・ケガ人の対応  
⑥⑦の内容を考え、余裕をもつために、10分後の再開を目途とする。

本部での協議の結果、再開の指示が出た場合、試験（面接）を再開する。

### 試験の再開

- 筆記試験 ⑥ ⑤の内容を放送し、協議内容を簡潔に伝え、再開の時間を指示する。各検査室の試験官Aは、その内容を板書する。放送機器が故障している場合には、各試験官Cが検査室に移動し、板書の後に口頭でも確認する。

放送  
or  
セリフ

『全検査室、試験時間を一律に@@分延長します。  
全受験生は、椅子の上に戻ってください。指示があるまで鉛筆を持たないようにして下さい。』  
『再開予定時刻になりましたので、解答を再開して下さい。なお、試験終了は@@時@@分です。終了のチャイムは鳴りません、放送（指示）に従ってください。』

- ⑦ 試験官Cは、軽度のケガにより保健室受験になった生徒の試験用紙・筆記用具・荷物を保健室に移動する。ケガ人については、本人の意思を尊重し、帰宅か続行かを決定する。（中学・保護者への連絡）

面接試験 中断した質問の始めから再開する。

セリフ

『中断していた質問の最初から再開します。』

### 状況報告

筆記試験 筆記試験用紙を束ねる検査室別表紙に、中断時間、中断・再開・試験終了の時間を記入する。（例：地震により中断 10:33～10:45 頃。試験終了は予定時刻 12 分後の 11:07）

面接試験 面接記録カードの欄に、中断時間、中断・再開の時間を記入する。

### 3 大きな揺れの場合（震度5弱以上相当）

中断 ⇒ 試験の中止、避難

#### 試験の中断

- ① 揺れを感じた場合、受験者に机の下に身を隠し、頭を保護するよう指示する。

セリフ

『机の下に身を隠し、頭を保護して下さい。』

試験官AB（面接官）も机の下に身を隠す。

- ② 揺れがおさまったら、検査室のドアを開け、出口を確保する。

セリフ

『ただ今、地震の状況を確認中です。試験は一時中断とします。机の下に身を隠したまま、指示があるまで、余震に備えその場でお待ちください。ケガをした受験生は本校保健室にて手当・治療を行う準備ができていますので、今、声を出して申し出てください。』

- ③ その時間の監督業務を外れている試験官C（D）は担当の検査室に急行する。

- ④ 試験官Cは、試験官ABと「検査室内の様子」と「ケガをした受験生の状況」を確認し、試験官Cがそれらの状況を本部に報告し、本部に待機する（⑥に備え）。ケガ人がいた場合には試験官Aが、保健室に連れていく。この時、各検査室内の受験生は机の下のまま。各検査室には試験官Bが待機

- ⑤ 本部は全試験官Cとともに対応を協議。  
協議の結果、本部より試験中止の決定が下った場合には、⑥⑦⑧⑨の検討を行うとともに、ケガ人の対応と受験生の帰宅方法について検討を始める。

本部の協議の結果、中止の指示があった場合には、筆記試験用紙を全て回収。

再開の場合は2 やや大きな揺れの場合に準じる

#### 中止の告知

- ⑥ ⑤の内容を放送し、協議内容を簡潔に伝える。各検査室の試験官Aは、その内容を繰り返す。放送機器が故障している場合には、各試験官Cが検査室に移動し、口頭で2回繰り返しアナウンスする。

セリフ  
および  
放送

『強い地震がありました。受験生の皆さんの身の安全と、安全かつ確実な帰宅の確保のために、本日の試験を中止します。帰宅方法について、これから各中学校と連絡を取りますので、そのまま教室に留まり、以後の連絡を待ってください。机の下から出て、元の体勢に戻って構いませんが、余震があった場合には、再度、机の下にもぐり、かつ、頭を保護し、身の安全を確保して下さい。』

- ⑦ 余震などが考えられるため、受験生全員の身の安全を第一とし、受験生の避難、誘導、安全な待機場所の確保と、その避難場所への誘導に努める。

#### 連絡・帰宅

- ⑧ 各中学校との連絡。各受験生の帰宅は「中学校の指示か送迎」あるいは「保護者の指示か送迎」による。それがない場合には、翌日まで本校にて避難させる。夕食等の手配など

#### 再試験の決定と通知

- ⑨ 再試験の実施の可否と、日程の確認、各中学校への連絡